



「セキュリティ業務を担う人材の現状調査」の現状報告

(2018年 下期調査)

NPO 日本ネットワークセキュリティ協会（以下 JNSA）の下部組織にあたる、情報セキュリティ教育事業者連絡会（以下 ISEPA）では、「JTAG（ジェイタッグ）」の活動を 2017 年より開始した。国内の情報セキュリティ事業者やユーザー企業が広く協力して、今後求められるセキュリティ人材の活躍という視点により検討を行っている。

2018 年上期に続き、下期（2018 年 10 月～2019 年 4 月）も人材調査のためのインタビューを行った。従業員が 1000 名以上の企業へのインタビューが主だった上期に対して、下期のインタビューでは従業員が 100 名に満たない企業へのインタビューも行っている。このことから、組織特性によるセキュリティの取り組みの違いを見ることができた。

上期・下期のインタビュー結果比較（概要）

上期と下期のインタビューを通して、大きく 2 つの違いが見て取れた。1 つ目はセキュリティ業務の在り方、2 つ目はキャリアパスの考え方である。

1 つ目のセキュリティ業務の在り方として特徴的なのは、業務を実質一人で切り盛りしている点である。上期の調査ではチーム・組織での回答が多かったが、今回は実質一人で対応している、セキュリティの専門はなく事業執行と合わせて対応している、と回答した企業もあった。

2 つ目のキャリアパスについては、組織の特性が出る結果となっている。上期調査では育成をしながらチーム・組織の成熟を高めるという取り組みが目立ったが、今回の調査では、組織の異動にともない業務に従事するといった人もみられた。ひとつの分野で専門家として従事するよりも、部署異動を重ねた方が昇進の機会を得やすい傾向がある。

調査目的

セキュリティ業務の担当者や責任者の方の知見やノウハウの共有を行うとともに、セキュリティ業務に携わる人が事前に何を学習および経験しておけば、より円滑にその業務を担うことができるのかを示唆することで、セキュリティ業務に携わる人材の素養を高めるための情報共有を行う。

調査期間

2018 年 9 月 ～ 2019 年 4 月

調査実施方法

担当者への対面インタビュー（JTAG 賛同メンバーにて実施）

調査対象企業数

5 社

質問内容

1.業務内容の把握
1.1.「セキュリティ業務」の位置付けとして現在行っている業務内容
1.2.「セキュリティ業務」を兼業で実施している場合には兼業の業務内容
1.3.「セキュリティ業務」を遂行するにあたっての研修などの教育有無
1.4.「セキュリティ業務」を行う環境（体制）
2.経験談
2.1.「セキュリティ業務」を実施していて苦労した経験
2.2.「セキュリティ業務」をしていてよかった経験
2.3.「セキュリティ業務」をしていて悩んだ経験
2.4.「セキュリティ業務」に着任しての処遇変化
2.5.自社のセキュリティ維持向上に効果が出たという取り組み
3.キャリアパス
3.1.「セキュリティ業務」についたきっかけ(つきたいと思ったきっかけ)
3.2.「セキュリティ業務」前に行っていた業務内容
3.3.「セキュリティ業務」についたことによるキャリア（観）への影響

本質問をベースにインタビューを行った。しかし、インタビューを受けた関係者の実態と合わないこともあり、一部質問をまとめるなどを行っている。このインタビュー内容の変更も各企業の特徴が出た結果と考えられる。

資料本編について

資料本編には、各企業へインタビューをした内容も併せて記載予定である。インタビューの内容がセキュリティの業務に気づきを与えることができれば幸いである。また、今回の調査結果をもとに上期との比較だけでなく、インタビュー内容をもとに広く分析を検討している。JTAGのキャリアデザインワーキンググループとして、セキュリティエンジニアだけにフォーカスを当てるのではなく、『プラス・セキュリティ人材』のキャリアデザインを考察していく予定である。

※本編発表は5月を予定しており、今回の現状報告の内容から一部修正する可能性がある。

特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会
情報セキュリティ教育事業者連絡会 (ISEPA)
2019年4月26日

<お問合せ先>

JTAG 事務局 (JNSA 内) jtag-sec@jnsa.org